

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 中島 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に、全国平均正答率を下回っている。 「読むこと」領域は、比較的正確率が高い。 問題形式として、記述式は全国平均正答率を上回っているが、選択式は下回っている。 すべての問題に対して、無回答率は平均5%以下で、全国平均無回答率を下回っている。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題は正確率が高い。 人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題は正確率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心に捉える問題は正確率が低い。 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題の正確率が低い。
算数	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均正答率を上回っている。 「数と計算」領域はよくできているが、「データの活用」領域が全国平均正答率を下回っている。 問題形式として、短答式及び記述式は全国平均正答率を上回っているが、選択式は下回っている。 ほとんどの問題に対して、無回答率は0%で、全国平均無回答率を下回っている。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる問題は正確率が高い。 表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができる問題は正確率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察する問題での正確率が全国平均正答率を下回っている。 図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解し答える問題の正確率が低い。
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っている。 「生命」を柱とする領域は比較的正確率が高いが、「粒子」を柱とする領域は正確率が低い。 問題形式として、記述式は全国平均正答率を上回っているが、選択式や短答式は全国平均正答率を下回っている。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫の体のつくりを理解している問題は正確率が高い。 メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている問題は正確率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> メスシリンダーという器具の名称を答える問題は正確率が低い。 予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの筋道を構想し、自分の考えをもつ問題は正確率が低い。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 学校での学習に関する項目では、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っている。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対しても、全国平均を上回っていた。 家庭等での学習に関する項目では、「自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対し、「よくしている」や「ときどきしている」の割合は全国平均より高いが、「学校の授業時間以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」に対し、30分以上の割合は全国平均を下回っている。家庭学習についての見直しが必要である。 ICTの活用に関する項目では、「5年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の割合は、全国平均より上回っていた。 学校の楽しさに関する項目では、「人と違う意見について考えるのは楽しい」に対し、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の割合は全国平均を上回っていた。しかし、「友達と協力するのは楽しい」の割合は全国平均を下回っていた。 自尊感情に関する項目では、「自分にはよいところがあると思う」の割合は、全国平均を下回っていた。学校生活の様々な場面で、自尊感情を高める手立てが必要である。 生活習慣に関する項目では、「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」に対し、「している」や「どちらかといえば、している」の割合は全国平均を下回っていた。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 国語については、特に選択式の問題での正確率が低い。これは、学習内容の理解が曖昧であることが原因と考えられる。基礎学力の向上を図りながら、1時間1時間の授業の中で確実に学習内容を理解させるようにする。 算数については、記述式の問題において全国平均正答率を上回っているものの、十分とは言えない。「問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書く」「言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く」等、書く活動を充実させた授業づくりに取り組む。 理科については、全国平均正答率を下回っている。特に、事実をもとに問題を見いだすことや分かりやすく結果をまとめることが苦手と見られる。今後、更に問題解決学習や体験学習を多く取り入れた授業づくりに取り組む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> 各学年の学習内容を確認し、家庭学習の内容や量について全教職員で共通理解を図り、全校での取組としていく。日々の児童への指導はもちろん、家庭学習の定着においても、担任だけでなく全教職員でサポートしていく。 ゲームの時間が長いことから、家庭と連携して、放課後の過ごし方の指導を機会を捉えて行う。 児童や保護者を対象に実施している「学期末アンケート」(年間3回)を通して、児童の学びや生活の実態を的確に把握し、取組を進めていく。
--